

茨城キリスト教学園高等学校同窓会報

ZION

シオン

No.

45

2025



●ZIONコレクションー 14

「アンネのバラ」

日記で知られるアンネ・フランクの父が“スーベニール・ド・アンネ・フランク”という名の
新種のバラをベルギーの園芸家に依頼して作った。四季咲きで、蕾の赤に命の尊さを、花
びらの黄色に優しさと愛を、散り際のピンクに平和への願いを込めた。 (チャブレン)

めげない、あきらめない、やり遂げる。

その先に見えること ◆面白い風を吹かせるサイエンス先生

理科 宇佐美綾子 教諭

東京理科大学主催『坊ちゃん科学賞高校生論文コンテスト』に生徒たちの研究の最後のまとめとして毎回発表して入賞している。他の発表会でも受賞しているサイエンス部。何か面白いことをやっているの聞いてみた。

●サイエンス部の歴史は？

生物部がスタートで最初のころは熱帯魚やメダカなどを飼育していた。当時は小澤則男先生が顧問で生物部として活動をしておりその後を引き継ぎ指導してからは大学を見据えた科学的なことをしたいという思いから物理部と合併してサイエンス部となった。

●サイエンス部の「めげない、あきらめない、やり遂げる」の思いは？

面白い研究の成果はめげないで、あきらめないで、やり遂げることで得られるんだよ。と伝えてきた。今の生徒は直ぐにめげちゃう子が多く、先生！どうせできないんだから……とあきらめちゃうところを、ブレークダウンして角度を変えて見たらと言って後押ししてあげる。生徒には少しでも色々な経験をあきら

めないでやる。そういう忍耐強い人にしてあげたい。

●心に強く残った研究は？

生徒たちと何の研究をしようかと話す中で自分たちが不思議だなと思ったことに焦点を当てて「面白い研究がいいと思うよ」とアドバイスしました。そして今のサイエンス部の原点となったのがあくびの研究である。

「先生、授業中に眠くなる。一生懸命に起きようとしても眠くなってしまう。これをサイエンスすると面白くないですか」ということで色々な実験を繰り返し結果を考察し、そこでわかったのがある先生の授業は眠くなる、また別の先生は眠くならない。それつまり声が違う。ということ音声の周波数を測ってみよう。ということになり周波数解析結果、眠

くなるのは揺らぎの音で、眠くならないのは不快な音というのがわかった。この研究は先輩に引き継がれ眠くならないようにするにはどうすればよいかと研究を重ねて、グーグル主催の全国的な研究発表で特別賞を受賞した。また、この研究は海を越えて2017年にサイエンスキャスルシンガポール大会での研究発表会に招待された。

当時はこのような研究をする学校が他に無から、本校が色々なムーブメントを作ったと自負している。最近では声や周波数解析などの研究を他の学校でも研究するようになり、本校生徒は新しい研究の道筋を作ったと誇らしく思っており、何人かは研究の道を歩んでいる。

●面白い研究は？

茨城県は日本三大ブスとか魅力度ランキング最下位で何も無い県だ。と騒ぎながらも、「でもお米はとっても美味しくて収穫量も多く、私たちは茨城県が大好きなんだよ。」そこで茨城県のブスを兼ねて、「コメから出る廃棄物の初級の利用を合わせた研究を始めた。糊穀からケイ素を取り出し保湿能力が高い化粧水をつくり美しくなる実験が始まった。この実験は地元活性化を促すこととなった。

●指導はどのように？

大学で多くの研究者と議論し学んだことは一つ、学ぶことを楽しむ人の間には壁はなく知識の前では平等である。時間を忘れて面白いことを追求することができると素晴ら

しい。それを生徒に体験して欲しい。そこで『卒業後の人生を生きていくためには？』という秘訣を教えている。周りとの楽しい時間をすごせるようになるためには、今出来なくても上手く行かなくてもめげずにやり遂げることで、これさえできればいろんな世界を渡ってける。だからめげないでねつと後ろから支えるだけ。

●先生にとってサイエンス部とは？

普段の勉強の世界は答えがあるが、サイエンスの世界で答えがないので、見つけるプロセスが面白く見つけた瞬間やつたーって思えるじゃないですか。だから気になったらサイエンスすればいい。わくわくするし、面白い。それを体験させるのがサイエンス部である。

●部員たちは？

生徒たちは全部自分たちで研究をしているから、発表会で他校の先生から質問されてもなんでも答える。日頃私やもう一人の顧問の大橋由佳先生からのツッコミが激しいので鍛えられているようで、どう言えば分かってもらえるのかを考え、わかりやすい言葉で発表するところがとても上手い。

●先生はどんな人？

小さい頃から生き物が大好きで、また隠れているものを発見、見えないものを見るようにすることが好き。特に小さい頃から海をみていると、海の中って、特に深海はどうなっているのか、面白いことがいっぱいあるのではないかと、いつか持てたから東京海洋大学に進学し、海洋環境学部で生物を調べていたが、生物が生きていくためには環境に左右されてしまうと考えると、生物から物理に変えて博士課程で水温変動のメカニズムの研究をした。

面白いことが真面目に詰まった研究論文という武器を持ち、いざ発表会へ出陣。審査委員からの猛攻撃にも正面突破。3年間のサイエンス部員は只者ではなさそうである。

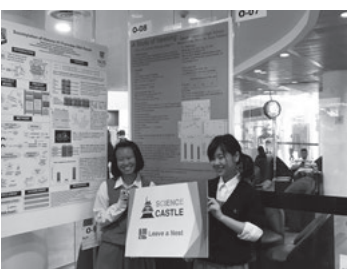


特別賞

茨城キリスト教学園高等学校
世界のあくび



サイエンス部の原点



シンガポール大会

後列左が本人、3人目が
 (故) 吉田丈夫先生



「仏」と「神」の二刀流?!

● 仏教男子校から転校して来ました

=オートバイと柔道部=

2年生の時、高校野球で有名な大阪の上之宮高校より、転校してきた。

通学は水戸街道の変電所前というバス停から水戸に向かい、2つか3つ目の日立研究所前で降りて、通っていたが、いつ頃からかオートバイで通ようになった。

同時に転入した(故)相山東平さんもオートバイで通っていて、ゴルフ場駐車場の隅に止めて裏から校舎に入った。

前の高校で柔道部に入っていて、相山さんも前の学校で柔道部に入っていたため、二人でシオンの柔道部に入った。道場がなく、芝生に畳を敷いて練習をしたことが懐かしい。

転校前は仏教の男子高校なので、校則は厳しく華やかさは無かった。

そのような高校から転校し、シオンに来たときは、こんな高校もあるのだと面喰った。学年で女性のほうが多いのに華やかさを感じた。

芝生に囲まれた素晴らしい環境で、驚いたことには喫茶室があったことだ。一度入ってみたかったのだが、最後まで入ることは無かった。

また、ラボラトリー室があり、先端機器での英語の授業には感激した。

そんなこんなで、シオンの素晴らしさをかみしめ卒業

した。

その後、卒業してから何度か同窓会に出席し、みんなで盛り上がったが、だんだんと出席者も減り、幹事をやる人がいなくなり、2019年(令和元年)第14回同窓会を最後に解散することになった。

更に、コロナ禍で数年間は仲間とでも集まることも困難になった。

コロナが5類になり、今では仲間と連絡を取り合って少人数で集まれるようになった。

昨年は、高等学校の総会や学園祭に行き、発展したシオンを見て、昔の情景を思い浮かべ、比較して楽しむことができた。



最後の同窓会



宇津伸
(旧姓五来・24回生)
笠間市在住

「Ask! 求めよ」心の支え

高校を卒業してすでに50年以上が過ぎ、改めて年月の早さを感じている。

学生時代の思い出は色々和蘇えるが、その中でも登校時に校門を入ると目に入る石に刻まれた『Ask!求めよ』の文字だ。これを横目で見ながら3年間通ったことを今回一番に思い出したことがとても不思議で、おそらくこの言葉が記憶の奥深くに刷り込まれていたようだ。

50歳になる時に夫の地元笠間に戻ったことをきっかけに、絵画・陶芸・染織などを制作する作家の作品を展示するギャラリーを始めた。そしてその隣には小さなカフェ『Nobu's Gallery & Café』もある。仕事を始めて今年で20年目になる。色々な作家との出会いや作品が仕事上の自分を作っている。さらに仕事に対して前向きにそして今を過ごせるのは『Ask!求めよ』という言葉に勇気づけられていたからに違いない。

最近ではいつまでギャラリーの仕事を続けることが出来るかと考えることが多いのだが、「もう少し頑張ってみよう」と語っている。

初恋は実らず

高校2年の時にサッカー部へ入部したが、まもなくして油絵や彫刻にも興味があったこともあり、3年で美術部にも入部した。美術大学へ進む道も考えたが、進路変更!昭和薬科大学へ入学した。大学では、友人2名とアート研究会を立ち上げ、創作活動にいそしんだ。卒業後は、外資系製薬会社の営業担当として、福島県全域を廻り、売上げ記録を更新した。多忙な出張の毎日だったが、県内の名だたる温泉地をめぐり、特産品を味わう副産物できた。

健康第一!職業柄強くなった酒だが、今は晩酌程度にひかえている。妻、娘夫婦、中学生の孫との5人家族。ドラマ、スポーツ、ドキュメンタリーとジャンルを問わないテレビ番組を楽しみ、毎日30分の散歩はいつの間にかルーティンになった。

数年前、お互いに読書好きで勉強会を共にした親友の菊池厳さんが発起人となり、卒業後初めてのクラス会があり、初恋の遠い記憶が蘇った。



神永教彦
(14回生)
いわき市在住



中井川芳江
(旧姓関・4回生)
水戸市在住

クラスメイトの友情に感謝

広々としたキャンパス、大らかでのびやかな校風の学園で、アメリカ人の教師からネイティブスピーカーの英語が学べることに興味を覚え、あこがれと誇りを胸に入学した。県外の入学者もいて、遠くからは鹿児島から入学した男子生徒もいた。ヴァージル・H・ローヤー、マックス・D・マウラー、チャールズ・W・ドイル先生からは聖書のことばも学んだ。人文の成績が合格点に及ばず、級友の男子生徒たちが黒崎千春先生に陳情して窮地を救ってくれた友情に今でも感謝している。

休み時間には、キャンパス内の外れに点在していた通称「外人住宅」の子ども達とたわいのない遊びをして過ごした。

服装は自由だったが、華美にならないよう常に心がけていた。

卒業後は電気工事会社で就職。会社の6年先輩と21才で結婚した。孫は4人、ひ孫も3人になった。30年前からアパート経営を始め、震災で全壊した建物を再建させた。級友だった4人の女友達とは、時折会って旧交を暖めている。

●いま輝いています●

Bright

真壁の魅力を広めた
切り絵展示

切り絵作家
竹蓋 年男 (28回生) 日立市在住



2003年に学習塾の塾長をやつてくれないかと声をかけられ真壁町の教室に赴任した。その町を散策して感じたのは、とてもいい街だなと言つことだ。その年から真壁のひなまつりが始まり何か手伝いできないか、という思いから絵を描いたり写真を撮つたりした。ある日、町の本屋さんで切り絵の教法を見て「これで町を紹介しよう」としたことが切り絵との出会いである。そして2008年、茨城県国民文化祭が開催され、江戸時代からの古い建物を含め100棟を超える国登録有形文化財が多く残っている真壁町を切り絵で紹介するため、学習塾との二刀流が始まった。

町が賑わつていた2011年のひなまつりが終わった数日後に東日本大震災が起こり、およそ9割の文化財が被災した。それでも町を復興させようと笑顔で頑張るお年寄りや町の人たちの姿をみて、改めて真壁の町並み・ひなまつり、そこに住む人々を3本柱として切り絵を制作することにした。

2014年ある日、いつものように町を散策していた時のこと。伊勢屋旅館の女将さんから「真壁ってひなまつりしかないよね」とお客さんから言われたのが悲しくて、そこで多くの人に真壁を知ってもらうためGW期間に旅館を使った切り絵展示会を開催することになった。更に震災復興のためのいばキラTVや茨城新聞社等のメディアに紹介されたお陰で、伊勢屋旅館だけでも県内外から550名ほどの来館者となつた。その時のお客さんから「切り絵教室をしてくださいませんか」という声が出た。翌月6月から伊勢屋旅館で切り絵教室を開くことになった。また真壁町商店街に設置されている33基の花行灯に切り絵を飾ることになり、一人では対応困難なので「真壁切り絵の会」を発足。今では会員の切り絵作品がおよそ2か月毎に入れ替え飾られて町の活性化に繋がっている。

切り絵の歴史は古くインドで発祥、中国を経由して京都に入ってきたと伝わるが、記録がほとんど残っていない。その後は友禅染や沖繩の染め物の紅型(びんがた)などの型紙として使われているが、戦後、玉里村現小美玉市出身の滝平二郎氏が色を付けた切り絵を作り一般に広まったとされる。

また切り絵は黒と白の和紙で制作するが基本で色和紙を使ったカラー作品も多くなっている。竹蓋氏の作品には古布や正絹、ちりめんを使うことでより温かみのある雰囲気を出そうと試みる作品も多い。また石灯籠や水府提灯とのコラボ作品なども手掛けている。大変細かな仕事であり集中力も並大抵

麻酔科医として

小さい頃からバレエを習っており、教室のお姉さん方はキリスト教学園に通っている方が多く、幼い頃から身近な学園だった。その影響もあり、中学から本校に入り、そのまま高校に進学した。踊ることが好きなこともあり、高校では憧れだったチア部に入部した。楽しい記憶として残っているのも、放課後に友達と残って踊ったことだ。

印象に残っているのは、中学・高校の時に自分の心と向き合う授業があり、自分のこと、家族のこと、将来のことを幼いながらも真剣に向き合ったことだ。病気の祖父を自宅で見ていることもあり、その時に医師になることを志した。

今は麻酔科医として手術室に来る方やお産を控えた妊婦さんに麻酔を提供している。出産時の痛みに不安を抱える人は多く、年々麻酔の需要が増えている印象がある。今後は、不安を抱える妊婦さんの手助けができるよう、無痛分娩の発展に貢献していきたいと思っている。



富田 知恵
(旧姓大森・54回生)
神奈川県在住



鈴木 敬吾
(74回生)
東京都在住
東京理科大学先進学部在籍

J-POP でホッ!ひと休み

父親の草サッカーブレイを見て興味を持ち、地元の久慈、東小沢小学校合同のサッカー少年団に入団。本校のサッカー部を何度か見学するうちに、その攻撃スタイルに自分の目指すサッカーはこれだ!と確信。迷わず入部した。ポジションはSB(サイドバック)。ボールをパスし連携しながら、ゴールのチャンスを作っていく。2年生でスターティングメンバーになり、県新人戦で18年振りのベスト8、3年生でもインターハイ県予選ベスト8の成績をおさめ、顧問の浅利知哉先生、赤津勝哉先生始め、メンバーと喜びを分かち合った。クラスはSGコース。学級委員長を務め、クラスをまとめた。指定校推薦で大学へ進学。勉強とサッカーを程よいバランスで保っている。

隙間時間には、ラーメン店でアルバイトをしたり、小学生から続けているピアノで、大好きなJ-POP.YOASOBIの曲を弾いたり、レパートリーが広がった料理を作ったりしている。長期の休みには、親友、西村壮太さんとの時間を楽しんでいる。



阿部 哲太郎
(44回生)
大阪府在住

幸せ願って努力し続ける

芝浦工業大学大学院博士課程を卒業。電気メーカーパナソニックへ就職。栃木、福岡県へ転勤。今は本社のある大阪で妻(46回生)、息子、娘、豆柴(犬)と暮らしている。

仕事は、ソフトウェア、セキュリティ等の開発業務後、現在は労働組合役員を担っている。

高校はサッカー部に所属、現在もプレー中。30代でフットサル栃木県代表、40代で関西サッカー大会4位と遅咲きだが充実している。地域少年チームコーチとして選手の育成にも力を入れ、サッカーで恩返し中。

また、毎年大阪から日立市内高校OBサッカーに参加し、先輩方との交流を楽しんでいる。高校時代には考えられないが、社会に出てから仕事もサッカーも勉強も本気で努力をしている感がある。学生の頃からリーダー的存在になってしまふコミュニケーションスキルを活かして、現状に満足せず、常に努力し、周りの人も幸せにできたらと思う。

今の自分は間違いなく高校時代の楽しい思い出のお陰であり、毎年自然と大みかの母校を訪れてしまう。母校に感謝!

英語は楽しい

英会話が好きで中高一貫校の本校に入学し、海外留学を経験して精神的にも成長し周りから『変わったね』って言われるようになった。

恩師であるVoss先生からは『りなはオウムみたいだね。だって誰かの英語をマネして使うのが上手だから』と言われたことが嬉しくて英会話をもっと頑張ろうと思った。

高校卒業後はキリスト教学園姉妹校アメリカのアピリーン・クリスチャン大学に進学して経営学を学び、卒業後はフロリダ州のウォルトディズニーワールドに就職してゲストリレーションキャストメンバーとして働き、世界中に友達が出来ることに感動する日々を送った。

中高時代は英語を話す、外国人とおしゃべりすることが大好きだったが、当時担任の中根有紀子先生からきちんと文章も書けるようにならないとだめ。と言われたが会話で十分じゃないかと納得出来なかった。しかし大学に進学すると課題やメール、友人とのメッセージのやり取りで文章を書くことが多くなり、そこで文法の大事さを知った。

その後コロナ禍前に帰国し、地元に戻り英会話教室『mahaloco English club』を開き文法を意識した会話を教えている。



岩上 りな
(64回生)
水戸市在住

街の大工さん ご用命ください

野球部で3年の時に主将を任されたが、それまでかなり監督の有馬正人先生に叱られた。おかげで、チームを纏めることを学ぶことができた。当時の野球部仲間とは年1回集まって交流を深めている。放課後の練習では当時学食のおばちゃんからよくコッペパンの差し入れを戴いた。

卒業後は父親が建築業を営んでいたので建築系に進学、そして建設会社に就職しキャリアを積んだ後、父親を手伝うようになったが、今から6年前に父親が他界、もう少し一緒に仕事をしたいけれど現在は息子と一緒に跡を継いでいる。

建築業界、何かと大変な時期ではあるが、毎日タリーズコーヒーを飲みながら息子と奮闘中。一緒に働いた後はたまに自分でカレーライスを作り家族で食べることが楽しみの一つである。また、何時かはガレージにホコリまみれになっている古い車を整備し、若いころに出場していたクラシックカーレースに息子とエントリーする…それを叶えたい。



今橋 厚司
(34回生)
高萩市在住



「この町には、古くからい人たちがいる。」「どこからきたの?」「日立からきたよ。」「う

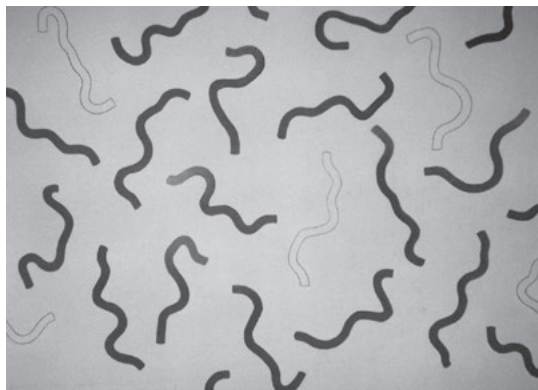
ーんそりやあ遠くからきたねえこの町何も無いでしょ」と言うが「そんなことはないですよ」と問答してしばらく歩くと、また別な人も同じように話し掛け「この町何も無いでしょ」と。その地に住む方は自分の町の魅力についてわからないものであるが、他所から来た者だからこそ魅力がよくわかる。「真壁の人たちに、すばらしいところを再確認してもらいたい」と言う思いから切り絵を始めた。今では町の人たちにとりて誇りある地になったに違いない。

栗林紅美子先生の ファミリーヒストリー

栗林先生は高校創立まもない1952年から1970年まで、美術の指導をされてきた。先生の楽しい授業を懐かしく思い出す卒業生も多いことでしょう。長女の照沼眞理子さん(17回生)に先生のファミリーヒストリーを語っていただいた。

大正8年(1919年)東京に生まれた先生は、戦前の台湾総督府に奉職していた父と共に台湾に渡り、現地の女学校から女子美術専門学校(現女子美術大学)西洋画科で学ばれた。本当は医者になりたかったそうだが、当時芸術の道を志す事も相当の覚悟であったはず。日本画家の堀文子氏は同窓で交流は生涯続く。卒業後は文部省で日展審査などの仕事をしていた。その頃、東大文学部で独語を学び外務省に勤務していた栗林種一氏と結婚。やがて種一氏はシオン短大で独語と美学を教えることになり、まだ幼い眞理子さんと紅美子先生も大衆に移り住んだ。同じく紅美子先生も高校の美術講師に。銀ブラを楽しんでいた先生は、茨城の素朴な自然と言葉にカルチャーショックを受けたらしいが、すぐにこの環境に親しみ、教師は天職、と生徒達を指導することを心から楽しんでた。小学校入学前の眞理子さんは犬を連れて一緒に高校の教室に通い、保育園のように生徒や先生達に遊んでもらっていたそうだ。

紅美子先生の授業を受けていた教え子達にもインタビュー。いつもお洒落な先生のファッションチェックが楽しみだったとか。スーツやニットの着こなしが素敵で憧れてました、と。



先生が描かれた作品



ファミリー展のDM



平成8年4月頃の先生



発行を担った
PR誌

やんちゃな男子
作品から優しい本性を見
り。先生は生徒達が個性を伸ば

生徒もついつい
抜かれてしまった
すことを喜び、美術

の道を目指す生徒の指導にも熱心だった。先生の薫陶を受け茨城の画壇を率いる大御所となったり、先生に憧れて美術大学に進学した卒業生も多い。眞理子さんも女子美術大学日本画科、多摩美術大学院で学んだ。

種一先生は短大を退職後に茨城大学の独語教授に就任。水戸に家を建てる際は、短大で親しかった滝口洋先生(短大学長、中高校長)が自宅の隣の土地を紹介してくれた。二、三年のつもりがすっかり茨城に根を下ろすことに。紅美子先生は短大の家政科でも色彩学を指導。さらにアメリカの寄付者に対するPR誌「茨城クリスチャン・エデュケーター」の発行を担うことになった。また日本美術連盟会員、新構造社会員であり、抽象画の創作活動を意欲的に続けていた。

学園を退職されてからは、水戸のリリー文化学園で、デザインと色彩学を教えていた。お洒落が趣味で、煙草が大好き、可愛い男の子がいるとご機嫌でした、と眞理子さんはクスリと笑う。カッコよくチャーミングな先生でした。眞理子さんの帰宅をハグして迎える紅美子先生と穏やかに微笑む種一先生の様子を、アメリカ映画みたいと、ご自宅でデッサンの指導を受けていた教え子は驚いたそうだ。

栗林家は皆芸術家。種一先生の詩、紅美子先生の洋画、眞理子さんの日本画で3人のファミリー展を水戸の相馬画廊で10回ほど開いていた。種一先生亡き後は一人暮らしをしていたが、東日本大震災後は神奈川の眞理子さんの元へ、2011年91歳で永眠された。そして今、眞理子さんは日本画家、ご主人はデザイナーから画家に。長女はパイプオルガン奏者、長男はプロのドラマーとして念願の武道館で演奏、ロックバンド<Minami Deutsch>と国内外でも活躍中。栗林家のアーティストファミリーヒストリーはまだまだ続いていく。

● 2024 年度同窓会への寄付者一覧 (86 件) 〈合計金額 545,800 円〉 ありがとうございます

1 村松 修	20 小川幸恵	33 百瀬弘美
5 佐藤敏光	20 村田亮	34 鬼澤いずみ
5 瀬木 昇	20 藤原智子	34 武田邦子
7 佐々木みつ江	20 菅原卓子	34 小林れい子
7 酒井敦子	20 市川千恵子	34 上岡かよ
8 安藤佳世子	20 沼田敏江	35 野寺聡子
9 今村純一	20 坂本隆彦	36 鈴木直子
9 片野和子	20 松田玲子	37 磯崎幹子
9 中林由紀子	21 石田牧子	37 宇須井一江
9 関口紀江	22 豊島義彦	37 黒木亜希子
11 戸張紀子	22 打越紀子	38 黒澤佳代子
11 大谷俊恵	23 弓野孝子	38 村山めぐみ
12 倉持征敏	23 武士一枝	39 中村美織
12 館 功代	23 佐藤芳子	39 伊賀るみ子
13 近沢博子	25 中村典子	42 山中一範
13 皆川睦子	25 園部美代子	45 西村真樹
14 丹羽智恵	26 遠藤敬子	46 井上直行
14 岡田敏子	26 島崎光子	53 山形亜由美
15 畠山博子	26 依田明子	57 松崎 藍
15 赤井美智子	27 大森明美	64 川端春希
16 田中多美子	28 永井五鈴	71 森下実紀
17 若松守正	28 富岡明美	7 旧職員 原田きよ
17 山口豊子	29 永山卓弥	旧職員 藤岡 尚
17 塩川文雄	29 岡田浩子	ホームカミングデー寄付
18 富田ひろ子	30 大久保文代	18 回生一同
18 郡司任孝	30 金澤邦博	20 回生一同
18 廣瀬慶子	31 渡辺利枝	23 回生一同
19 手塚正子	33 川上光彦	匿名 3 名

「ZION」発行への寄付のお願い

同窓会は、今年度新たに75回卒業生294名を迎えました。毎年2万人以上の卒業生への「ZION」発行と送料などで200万円以上の経費が必要です。皆様のご協力をお願い致します。金額については1口2000円以上とし、入金方法は、同封の「ゆうちょ銀行」払込取扱票（ブルーの印字）をご使用下さい。

● ご勇退されました。ありがとうございます！

2025年3月・齋藤元子先生（現・本中高非常勤講師）
・中井川竜文先生（現・本中高非常勤講師）

● ご逝去されました

- ・唯野（金川）嘉代子先生 ・新妻愛子先生
- ・リチャード E エルマー先生（「ZION」No.43「あの頃を語る」で紹介）12月、94歳

開催しました!!

■ 16 回生、18 回生

2024年6月1日（土）、ローガン・ファックス記念講堂で開催されたホームカミングデー（同窓会総会）に参加・合流することで同窓会とした。16回生6名、18回生が9名が参加。総会、催し、楽しい集いの後、ランドルW.ヴォス校長の案内で大学や高校の新校舎見学ツアーが行われた。

■ 20 回生

2024年11月9日（土）、ローガン・ファックス記念講堂の2階で50名が参加して、学年最後の同窓会を開催。原田きよ先生、杉本（浅野）恵子先生、梅津直子先生とランドルW.ヴォス校長も出席され、懐かし楽しいひと時を過ごした。卒業後半世紀以上が経ち、大きく変貌した学園や周辺の様子に驚きの声が多かった。



■ 23 回生

2024年12月1日（日）、テラスザガーデン水戸で38名が参加し、毎回参加の恩師の須崎（尾花）章子先生を囲んで、同窓生の70歳を記念して学年最後の同窓会を開催。還暦で開催した2014年、その後の2017年、そして今回の3回分の残金6万円を高校同窓会に寄付した。

探究活動

2022年度から全国の高校で「総合的な研究の時間」が必修科目となった。教科や科目の枠を超えた横断的な総合的な学びの時間で、情報化やグローバル化が進む社会で生き抜くために、生徒が自ら学び考え整理して課題を解決していく事を目標としている。学習意欲が高まり、学力向上と将来の目標が明確になるメリットがあるとされている。本校では丹治哲之介先生（国語）が2018年に「探究」をより効果的に運用するため、地域魅力化コーディネーターの資格を取得し、2019年から一部のクラスで試験的に授業を開始した。

1年生はインプット、2年生はアクション、3年生は2年間で得た経験をまとめ、それぞれの進路に向かって動いていくとの基本的なスタンスで進めている。

「大人とは？」とのテーマで、1年生は①両親や祖父母、②少し先輩の教育実習生、③先生、④地域で働く大人達など対話をして生き方や職業観を養い、地域に対する興味を深めて、学校での学習と職業についての関連性を知り、文系理系などの進路選択に役立させている。

2年生では、社会にどのような形で参画できるか、あるいは役立てられるのかを考え、地域の課題とその解決策を考える機会を与えている。2024年度は4～6月の活動では本校の紹介リーフレットを高校生目線で作り、本中学校や久慈中学校の生徒達から批評してもらい、それを活かして学校見学会では講堂で中学3年生にプレゼンをしたグループもある。

全国高校駅伝

■陸上競技部（女子）

令和6年10月26日、ひたちなか市総合運動公園周辺周回コースで行われた、女子第36回全国高校駅伝大会県予選となる大会で、5年連続26度目の優勝を飾った女子陸上部は、同年12月22日、京都市・たけびしスタジアム京都で行われた全国大会に5年連続27度目の出場をし、昨年の21位より順位を2つ挙げ19位の結果となった。

また、令和7年1月30日に笠松運動公園周回コースで行われた、県高校新人駅伝大会で、2年連続25度目の頂点に立った。次回大会でのさらなる飛躍を期待したい。

第76回シオン祭『シオン化現象』

この何年か天気にも恵まれて、天高く秋晴れの中でのお祭り開催。

いつものお店ではフリマ、フィギアの売上げが好調で、収益は97,150円となり学園祭協賛金20,000円も納めることが出来た。

手作り感いっぱい学園祭。今年のお笑いは人気芸人のラバーガール、その他で大盛り上がり。口角が上がりっぱなしのひと時だった。



編・集・雑・感

今年は昭和100年の年に当たる。皆さんこの100年を何歳で迎えましたか？平成生れの方も多くいることでしょう。何か節目の年と捉えて思い出づくりが出来ればと思っております。

さて、わが校の卒業生は3万人近くいるそうだ。広報誌ZIONの取材をしていく中で様々な方とお会いすることになる。そこで「仲間は同級生だけじゃない、先輩・後輩も仲間なんだ」と今あらためて実感した。(I)

★本誌編集スタッフ募集！

●編集スタッフ

佐藤寿子・岡田貴子・手塚正子・荒川眞理子
原田順子・松田玲子・高野雅之・池ノ辺浩・安達和子
芳賀友博・黒木亜希子

●デザイン：M-at

ゲスト
出演



2025 年度 同窓会総会

ホームカミング・デイ

● 5月31日(土)

● ローガン・ファックス記念講堂

(旧学園講堂)

総会・催し・楽しい集い=13:00～16:00

参加先生=ヴォス校長、杉浦聖美副校長、斎須博高校教頭、鈴木巧中学教頭

リサイタル「愛に寄せる歌」

黒澤栄理子(64 回生)

声楽家・泉ヶ丘中非常勤講師

★その後は「楽しい集い」and「大抽選会」

参加費無料
です！

Dg Divergence ダイバージェンス株式会社
代表取締役: 栗原 亮 48 回卒

● WEB・EC制作事業 ● System Integration 事業 ● MOBILE 事業

ACCESS: 東京都港区南坪3-13-12
MAIL: info@diver-gence.com TEL: 090-8165-7003

建築設計・監理・既存建物調査

磯山設計事務所

一級建築士 磯山 治 (18 回卒)

〒309-1736 笠間市八雲 1 丁目 5-16
TEL0296-77-0476 FAX0296-78-2365

文政五年創業

楼

水戸市泉町3-5-6
TEL:029-231-3318

L

フランス菓子 **ルブラン**

水戸市千波町370 TEL.029-241-1991
http://www.leblanc.co.jp

建築・土木・住宅・リフォーム

井上工務店

茨城県ひたちなか市和田町1-10-13
Tel:029-263-0211 Fax:263-0215
http://www.inoue-kouten.jp

天心が想い 大観が描いた五浦

五浦観光ホテル 別館 大観荘

常務取締役 女将 村田和華子 (35 回卒)

北茨城市大津町722 TEL 0293-46-1111(代)
http://www.izura.net/

おもてなしサロン

ROSE CAFE

主宰 潮田 菜々子 (39 回卒・旧姓 鈴木)

〒310-0033 茨城県水戸市常磐町
http://www.rosecafe7.jp/

一般貨物自動車運送業・産業廃棄物収集運搬業

MBS

ミヤウチ物流システム(株)

水戸市平須町158-190
TEL029-212-3812

Hitachi Equipment Design & Construction

株式会社常陸設備設計

経済産業省 承認 電気保安法人

勝田事務所 〒312-0034 ひたちなか市堀口 832-2
(株)日立パワーソリューションズ勝田事業所内
TEL 029-276-5780 FAX 029-247-8924
E-mail:jyosetu-hoan@vesta.ocn.ne.jp
水戸事務所 〒310-0844 水戸市住吉町192-35

NEXT-カワシマ

川島プロバン・住まいるカワシマ・らぼーカワシマ

住まいのコンビニ
らぼくらび
http://puron.co.jp

本社:茨城県ひたちなか市津田2941 TEL.029-273-8751
日立:日立市川原5丁目4-15 TEL.0294-42-7111

和雑貨・器・洋服など

正直や

吾玉制作体験もできます!!
小松香織 (37 回卒)

水戸市泉町 1-2-26 2F TEL080-8920-8039
(水戸市民会館すぐそば)

スタジオ&カフェ

音楽発表会
楽器練習
名曲教室
撮影・配信
写真展・セミナー
レストラン・パーティ

ピアノ2台・音響機器・
配信設備・事務用キッ
チン・撮影機材完備

中井川俊洋 28 回卒
日立市大みか町 6-17-60
090-2322-5140
https://nakaigawa.tokyo/sumika

糖のまち 日立の うかるくんともうかるくん

会運上昇! もうかるくん 必勝合格! うかるくん

茨城県日立市 非公認キャラクター

https://www.facebook.com/Ukarukun
Email ukarukun@hkp.co.jp

HOME ROASTED SAZA COFFEE
SINCE 1969

鈴木誉志男(10 回卒)・鈴木太郎(40 回卒)

本社:ひたちなか市共栄町8-18
TEL 029-274-1151
www.saza.co.jp

★広告掲載(有料)希望される方ご一報ください

茨城キリスト教学園高等学校同窓会報

ZION No. 45

●発行日=2025 年 5 月 1 日

●発行人=川上光彦

●発行所=茨城キリスト教学園高等学校同窓会

〒319-1295 茨城県日立市大みか町 6-11-1 TEL.0294-52-3215(代) FAX.0294-53-9271

https://www.icc.ac.jp/zion/ E-mail:ih-dousou@icc.ac.jp